

地域に求められる、急性期病院として

～ことわらない救急医療の実践～

理事長 貞方 洋子

ことしも早いもので、平成22年10月より公益社団法人として認定を受けてより、はじめての1年間の年報の発行となりました。一年間を振り返って、南風病院の“いま”をお届けします。

3.11の東北大震災以降、我が国にとってこの一年は政治・経済をはじめ、社会全般においてめまぐるしい変化の年でした。政治の世界では、短命に終わった鳩山、管内閣の後を受けて誕生した野田内閣ですが、いまだに「ねじれ国会」、「決められない政治」からは脱却できていません。経済界では円高・デフレです。こちらも震災の影響も重なって相変わらずの低空飛行です。一方、社会全般に関して言えば、「絆」という言葉で代表されるように、ぬくもりのある地域コミュニティへの人々の関心が高まった年でもあります。

南風病院のトピックスとしては、以前から進めているがん診断・治療の集学的センター化。こちらは外来化学療法法の拡充や緩和ケアの充実、がん患者の会の発足など、より一層の充実を図ってきました。また、急性期病院として各診療科の専門性の追求については、医師をはじめスタッフの日頃の診療努力と、忙しい業務の合間をぬっての症例検討会や研究発表などにより、医療の質の確保に努めています。さらに、地域医療支援病院として、地域に求められ地域の患者さんの役に立ちたいと、「断らない救急医療」にも力を入れて参りました。その一環として消防隊との定期的な合同カンファランスもスタートしました。

これからもスタッフ一同、地域医療支援病院として、また、地域に求められる、地域のための急性期病院として一層の精進をしております。今後ともご高配とご鞭撻を受け賜りますように、心よりよろしくお願ひ申し上げます。

Nanpuh Hospital